

項	重点目標(取組)	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
一人一人を伸ばす自立に向け	・きめ細やかな指導の充実 一人一人に応じた指導の充実を図る。	・「学ぶ力・生きる力向上支援員」が配置されたことで、1学年の数学において複数指導の学習形態をとることができた。つまずきのある児童に対する支援がしやすくなった。	A	・各支援員との連携を深め、個に応じたワークシートの開発などを進める。 ・つまずきの大きな生徒には、家庭学習の仕方等についての支援を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に落ち着いた学校生活、学習が出ている。明るい雰囲気での授業がよい。</li> <li>・教師のきめ細かい工夫と指導を感じることができる。</li> <li>・授業風景を見て、大変静かで驚いた。学校として現在取り組んでいることをさらに続けていただきたい。</li> <li>・授業開始3分前着席など、学習に向かう心構えができていることが学力向上につながると感じるので、これは続けてほしい。</li> <li>・生徒一人一人に応じた指導は、いろいろな方法があると思うが、現在の取組を継続、進化させることが一番だと感じる。</li> </ul>
	・確かな学力の育成 フォローアップ週間を活用し、基礎学力の充実を図る	・定期考査前のフォローアップ週間は、考査に向けての意識向上につながっている。また、生徒相互が教え合う機会にもなり、生徒同士の学びの相互支援ができた。	A	・来年度導入予定の学習支援ツールの有効活用を推進し、生徒が意欲をもって自主的に取り組める体制づくりをする。 ・フォローアップ週間での授業形態、教材を再考し、考査前の補充学習をさらに充実させる。	
	・豊かな心の育成 学校生活全体を通じた道徳教育を推進する。	・計画的な道徳の授業を行うことができた。各学年の現状に合わせた投げ込み教材等が有効であった。 ・教科の授業や部活動での教師の言葉かけが増え、生徒の反応も良くなった。	A	・人権感覚を磨き、生徒の心の壁に触れるような言葉かけに努める。 ・平成28年度からの道徳の教科化に対応できるように年間指導計画の見直しと評価等の研修を行う。	
実教員を磨き、学校の魅力と	・職員研修の充実 スキルアップ研修、OJT研修など定期的に行い、教員の資質向上を図る。	・生徒指導通信を定期的に発行したことで、日々の生徒への具体的な対応に役立てることができた。 ・スキルアップ研修研究授業では、グループ学習の活用など、生徒が主体になる活動の提案があり刺激を受けた教員が多かった。	A	・日々の職員室での会話を増やし、職員が相談しやすい雰囲気づくりに努める。 ・校外研修で学んできたこと全職員に発信するようにし、多くの職員のスキルアップにつなげたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会を中心にした取組が、いじめ問題の減少にもつながっている。子どもたちの自主的な活動を支援する指導を今後ともよろしくお願いたい。</li> <li>・学校ホームページを拝見した。大変素晴らしい編集で、学校の様子がよくわかる。</li> <li>・学校ホームページのアクセス数が多く、内容が充実している。新しいツールでの保護者、情報共有がさらに発展するように努めてほしい。</li> </ul>
	・子供たちが生き生きと過ごせる学校生活の実現 いじめへの対処と未然防止への取組を推進する。	・毎学期に「いじめについてのアンケート」を実施し、実態把握に努めたことで、細かなトラブルも早期に発見でき、いじめの未然防止につながった。 ・学年を超えての情報共有がスムーズにいかず、連携した取り組みに課題が残った。	A	・いじめアンケートの継続 ・生徒指導打合せ会での情報共有を進め、学年をこえた指導体制を強化する。 ・いじめ防止小中地域会議を活性化し、保護者、地域の方々の協力体制を進める。	
	・情報発信の充実 学校だよりや学校HP等により、情報発信の充実を図る。	・「学校だより」や「学年だより」など計画的に発行することができた。また、学校ホームページではタイムリーな情報を記載でき、月に約5000人の訪問者を数えるまでになっている。	A	・「学校だより」を自校で印刷することでよりタイムリーな内容になるように工夫する。 ・学校ホームページは、学年係の分担を明確にし、より詳しく学校の様子が分かるように工夫する。	
更に発展させる神戸の教育を	・言語活動の充実 「読んで、まとめて、書く」ことを意識した授業展開を図る。	・国語、社会科などの教科で、意識的に取り組むことができたが、他の教科ではあまり取り組めていない。 ・朝の読書の時間への活用など、教科外での取組に課題がある。	B	・各教科打合せを行い、全教科にわたり言語活動を中心とした授業の進捗状況の確認を行う。 ・朝の読書の時間に、「まとめの達人」等の活用を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年での「福祉教育」「キャリア教育」「国際理解教育」が充実している。現在の取組を継続させる中で、子どもの現状に応じた指導の工夫をお願いしたい。</li> </ul>
	・神戸らしい教育の充実 福祉、キャリア、国際理解教育の充実を図る。	・総合の時間を使って、計画的に各学年のテーマに沿って取り組めた。授業後には多くの生徒から建設的な感想を聞くことができた。	A	・ゲストティチャーの活用なども含めて、体験的な活動も取り入れていく。	
市民が自ら学び子供を共に支える	・地域との連携 神戸っ子応援団、ふれあい懇話会、地域行事への積極的な参加を図る。	・地域主催の行事に、生徒会を中心に積極的に参加することができた。地域の中の一員であるという意識を持つ生徒が増えている。 ・学校行事や学校公開日などの積極的なPRに課題がある。	A	・生徒会主催の「クリーン作戦」などのPRを地域にし、いき、地域の方にも参加してもらえるようにする。 ・神戸っ子応援団のあいさつ運動をさらに充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコキャップ回収やクリーン作戦など生徒会活動が地域で展開されることで、生徒の社会性が向上していきと感じる。今後も継続してほしい。</li> <li>・学校公開の出席者が少ないということでしたので、何か工夫が必要かと思う。</li> <li>・地域の行事が小学校区単位になるので、中学校との交流や「神戸っ子応援団」の活動をさらに推進してほしい。</li> </ul>
	・保護者との連携 家庭訪問等相談の充実を図る。 学習習慣の向上を図る。	・年間の家庭訪問の回数や相談回数は、昨年より増えており、保護者の意見を積極的に吸い上げることができた。 ・宿題の出し方など、家庭学習に対する支援が必要である。	A	・家庭訪問・保護者相談の回数を本年度より増やし、保護者、生徒の悩みに応えらえるようにする。 ・定期的な宿題を与えることや家庭学習の取り組み方を具体的に指導し、家庭での学習習慣が身に付くように支援する。	